

見どころ案内

モリアオガエルの卵

(モリアオガエル科)

日本固有のカエルで、水面上にせり出した木の枝や草などに泡状の卵塊を産卵する変わったカエルです。安芸太田町加計では県の天然記念物に指定されています

展示会のご案内

◇展示資料館 1F (5/8~6/5)

趣味のボタニカルアート展

◇展示温室 (5/25~6/6)

セントポーリアとイワタバコの仲間展

ウツギ (ウツギ科)

園内各所で野生化しており、白い花が咲き始め、果実もついています。幹が空洞なので空木、あるいは旧暦の4月(卯月)頃に花を咲かせるので卯木になったといわれています。

バラ (バラ科)

散り始めたバラもありますが、マイ・グラニー、アイスバーグ、マザーズディ、ラベンダーラッシーなどまだまだ見頃のバラがあります。

詳しくはローズフェスティバル 2019 ガイドマップをご覧ください。

ベンガルボダイジュ

(クワ科)

熱帯アジア原産の常緑樹で大きいものは高さ30mにもなります。インドでは聖樹の一つとして大切にされています。現在、非常に小さいですが、スロープデッキより赤いイチジク状果を見ることができます。

ブラシノキ (フトモモ科)

オーストラリア原産の植物で、名前の通りコップを洗うブラシのような形をしています。

ブラシノキは極端な乾燥や森林火災などの時に種を散布する特性があり、これは競争相手がいないときに種をまくことで、生存競争を有利にしています。

ブタナ (キク科)

遠目には背の高いタンポポに見えますが、1茎に花が複数つくなど、よく観察すると違いに気づくはず。和名はフランス名(Salade de porc 豚のサラダ)の直訳です。

カルミア (ツツジ科)

北米東部原産の常緑樹。庭木などに利用され、蕾は金平糖のような形で、開花すると五角形で碗型の花を咲かせます。

チドリソウ (キンポウゲ科)

花の形が鳥が飛んでいるように見えることから、この名前が付けられました。別名で飛燕草(ヒエンソウ)とも呼ばれています。

ポリウムがあるので、花束などにも使われます。

ヤマボウシ (ミズキ科)

白く花弁に見えるのは、苞葉(ほうよう)で葉が変化したものです。白い苞葉を僧侶の頭巾に見立てて、山法師(比叡山延暦寺の僧兵)と呼ばれています。

ログガーデン

バラがまだ見頃です。

オルレアやジギタリス、バイカウツギ、デルフィニウムなど季節の草花も見ごろです。

